

維遼曆五年歲次甲子朔癸酉
百零二月廿日立碑于北山之南
邑守鎮守劉將軍勸四等紀成
講廣鄉之安寺繼善墓志



日本の金石文⑨「紀 吉 繼 墓 誌」延暦三年（784）



図版②



図版③

平安初期の延暦3年（784）の墓誌銘である。役人であった紀広純の娘である吉継の簡単な官職名などが刻されている。詳細な発見日時は不明であるが、江戸後期には、この墓誌が記録されている。図版に示した拓本が、ほぼ原寸大である。文化庁の資料によると、大阪府南河内郡太子町より出土したとされ、重要文化財に指定されている。材質は石ではなく、磚（せん）ではなく、資料写真では、ほぼ同じ大きさの直方体のものが2つ重ねられている（図版②参照）。上方が、蓋の役目を果たし下の銘文を保護しているような様式であり、六朝以後墓誌の様式に似ているが、蓋には文字は刻されて

いないようである。銘文は、縦横の界線で1行あたり幅3、長さ24センチに跨画され、4行に及んでいる。5行目は、全く文字が刻されていない。書風は楷書体であり、北魏の整齊で力強い墓誌の書風に通じる所がある。文字の

結構は、安定した六朝楷書であるが、点画の起筆、終筆、筆の抑揚などが、それほど丁寧に刻されず、粗雑である。一見すると、漢時代の草率な墓誌銘である「刑徒碑」（図版③参照）の様な趣を感じさせるが、文字の結構を熟視

維延暦三年歲次甲子朔癸酉丁酉參議從四位下陸奥國按察使
兼守鎮守副將軍勲四等紀氏
諱廣純之女吉継墓志
伊藤 滋 メールアドレス
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

すると、刻の粗雑さの背後に隠れた本来の優れた楷書の書風を想像することができそうである。

〈釈文〉

維延暦三年歲次甲子朔癸酉丁酉參議從四位下陸奧國按察使
兼守鎮守副將軍勲四等紀氏
諱廣純之女吉継墓志
伊藤 滋 メールアドレス
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

書道藝術院

平成の群像 (2014)

個展
児玉韜光の世界



「大智偈頌」
300 cm × 90 cm × 15枚

児玉韜光



私の教育道は 書道から

書道に熱中しはじめて今年で40年になります。新任地校等の勤務を終え大分市内の小学校に勤務しました。そこで、牧泰正（泰濤）先生（現・公財・書道藝術院理事）との出会いが、今の存在を決定づけられました。「おもしろい字を書く人じゃなあ」と声をかけられたことが書道に熱中するきっかけになりました。白川青嶺先生（元大分大学教授）を紹介していただき、門下生になる時、「いい教員になるために書道をするんで。白川先生が困るくらい書き込みよエ」また、教育行政職に出向する時「『字だけ書いちょ』と言われたら終わりで。でも土・日曜日は自分の時。県美展・書道展だけは、そっと出品し続けよ」と示唆をいただきました。勤務時間終了後、毎週1回大分大学で書道部員と共に指導を受けました。その都度学生の前で「恥」をかきながら、もう一人の先輩教員と切磋琢磨しながら続けました。厳しい指導でしたので、作品の字が見えなくなまるほど「朱」一色になることの連続でした。先生から①忙しいことは理由にななりません。寝る時間を考えなさい。

写真は個展での作品です。虚静恬淡即ち己を虚しくし心を静かに落ち着け無欲であつさりした気持ちで筆を執るよう心がけました。良寔語釈「大智偈頌訳（だいちげじゅやく）」の元旦二首です。作品の大きさは縦3メートル、横13メートル50センチ。前半はある人が大智に「新年の仏法はいかん」と問うならば、大智は開口一番“何もお前たちに言うことはない”と答える内容です。後半は、新年頭に坐禅に明け暮れる時節は天下泰平そのものであるという内容です。思いと表現は一致しません。

今後の生き方ですが、「①古典を臨書する。②自分らしさを表現する。③無欲で取り組む。④書道をとおして人間育てに尽力するとともに自分自身も人間として成長する」を念頭に置き、励みたいと思います。

②毎日の練習を確保するために詳細な日課表をつくりなさい。③古典をしっかり稽古しなさい。④筆を立てなさい。⑤添削は1回5～10枚にしなさい。⑥いい道具がほしくなったら上達している証拠です。この中でも特に厳しかったのが②の日課表でした。家庭では10時までは教材研究（次の日の授業の準備）です。それから書道ですから夜遅くなることの連続でした。続けたおかげで、書道展での賞がいつのまにかついてきました。教員として役職もいたとき、「教育道は書道から」と痛切に思っています。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

毎日書道展・東海展・中国展・東北仙台展相次いで開催

8月26日～31日、第66回毎日書道展

東海展および中国展が同時開催。大雲東海展に担当として陳列、開幕式に参加させていただいた。開幕式の後、作品解説会も行われ盛会であった。

9月12日～17日、東北仙台展が開催され13日前、会場にて作品解説および席上揮毫を中村義龍氏とともに大雲担当、午後からは会場を移し出品者の集いが300名余の参加を得て盛大に開催された。本院より恩地春洋、香川倫子両顧問はじめ多数参加、大いに盛り上がった。本院関係者のご協力に深く感謝申し上げたい。

全書連第155回理事会開催 書写書道教育振興署名は90万人超

公益社団法人全日本書道連盟定例理事会が9月18日上野精養軒にて開催され、以下の項目について審議した。

1 書写書道教育推進のための署名活動中間報告 当初50万人を目標に本年8月末日まで全国各書道団体を通して行われ、8月末日現在90万人を超す署名が寄せられた。多くの方々の関心の

高さを物語るものであり、書道芸術院も目標14000名を超す2万人人余の署名が寄せられた。皆様のご協力ご支援に感謝申し上げたい。

9月24日に全書連・全国書美術振興会を代表として文部科学大臣に署名をお届けすることになっている。今後中央教育審議会などへの要請活動などが精力的に展開される。皆様方の更なるご支援、ご協力を願いしたい。

平成26年度夏期書道大学講座

8月1～3日、池袋サンシャインにて開催され、3日間延べ240名の受講生で盛会。1日2科目（篆刻は1日講習）、実技を中心とする講座は連盟役員など一講師陣で充実。

平成26年度書道講演会

26年11月実行委員会開催され、講師読売新聞東京本社編集委員菅原教夫氏「読める書について」。多くの参加を。

平成26年度助け合い募金

例年通り連盟顧問、理事、参与、評議員をご協力をお願いする。作品頒布でなく寄金をお寄せいただくことになっている。昭和50年から始められ受付総額は1億3600万円余となっている。毎年日本赤十字社に300万円、中国大使館へ100万円を寄贈している。

助成事業 県単位10万、市町村単位5万の範囲で各種講演会、講習会などの開催について助成している。本年

度は全書研・全高書研など現在4件の申請に対し助成が決定した。

6 高野山開創1200年記念献書事業への協力。平成27年度実施。献書招待作家、推薦作家などの大綱決定し献書依頼開始した。

7 連盟参与会員・評議員委嘱内規を確認、再検討した。会員推薦などは從来通り。詳細は連盟事務局へ。

毎日理事小委員会開催

9月10日 毎日書道会理事小委員会（書家側理事、監事）が開催され当面の事業遂行などにつき検討した。

2015新春展

2015年1月5日（月）～11日（日）会場 和光会場、セントラル・ミュー

ジアム銀座

出品者 和光会場 今回より財団顧問（書家側理事、監事）が開催され当面の事業遂行などにつき検討した。

2015新春展

2015年1月5日（月）～11日（日）会場 和光会場、セントラル・ミュー

ジアム銀座

出品者 和光会場 今回より財団顧問（書家側理事、監事）が開催され当面の事業遂行などにつき検討した。

2015新春展

2015年1月5日（月）～11日（日）会場 和光会場、セントラル・ミュー

ジアム銀座

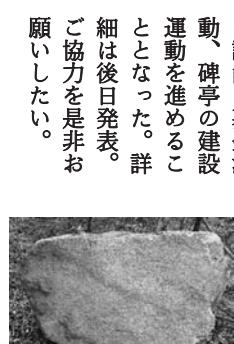
出品者 和光会場 今回より財団顧問（書家側理事、監事）が開催され当面の事業遂行などにつき検討した。

北魏・太基山刻石「郭靜和題字」原石発見、碑亭建設へ基金募集

本年4月28日、太基山管理局は山道を整備する過程で「郭靜和題字」刻石を発見した。過去、山東省博物館の調査研究では、1958年、貯水池建設の際に押しつぶされ、現在は見られないと伝えられていたもので、半世紀を経て再発見である。

これを受け船本芳雲、石飛博光、中原志軒、種谷萬城、宮本博志、辻元大雲等が発起人となって鄭書保護基金会を設置し募金活動、碑亭の建設運動を進めるこ

ととなつた。詳細は後日発表。ご協力を是非お願いしたい。



拓本



刻石全体像

漢字(一)

濱田尚川

篆刻・刻字(一)

後藤大峰

書線がこんなに美しいものは

旧制高知師範予科時代が書の道への土台となつた。情熱あふれる川崎梅村先生との出会いによって書の勉強がこれ程深く面白いものであるかを教わつた。「臨書の大切さを知る事が大事だぞ。」

風韻の高い黄庭經の臨書がスタートでした。翠軒流の淡墨表現にはびっくりするやら驚くことばかりだった。でも先生の書かれる運筆を見せていただ

きながら、わかりやすい解説で伸び伸びした柔かい気持ちよい線に引き込まれていった。そして不思議に思ったのが字が大きく見えることだった。先生から次々に示して下さる古

典がどれも大きく見える……何故かな?だから古典から学ぶ以外に方法はないんだな。懐の広い豊かさを取らなければ……と。そして夫々の古典の線質から

自由な幅の広い表現方法を学ばなければならぬ。

線性の生きた書を求めるためには古典は限りない書の宝庫だと言えよう。単に上手な字

い。臨治河議は松翁の臨書を学び「ねじれを生かせよ。」

と半折四曲屏風—書道芸術院展・高知県展出品作(30代)

この形式は10数年勉強した、

時代が昭和から平成に移ろうとした

ある日、師匠、千田得所先生から電話

で「大峰さん今度、書道芸術院展の審査員に推選したから。今度、展覧会

あるから準備しなさい。」と、私はこの日から書道芸術院に参画さ

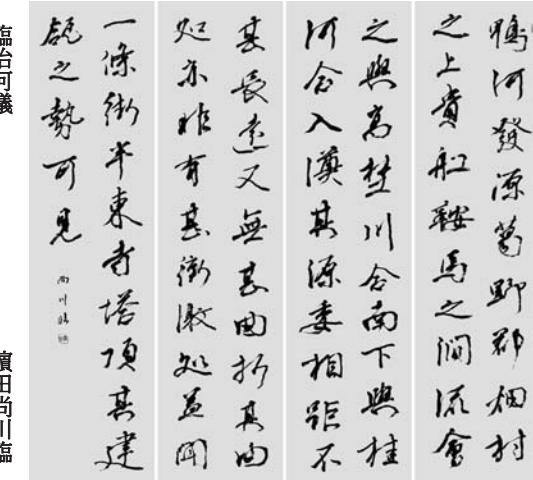
せて頂きました。私共の社中(石心会)は書道芸術院展では『篆

刻』毎日書道展では『刻字』での出品と言うのが其の方針でした

(現在も概ねこの方針)。篆刻と言

—私の主張—

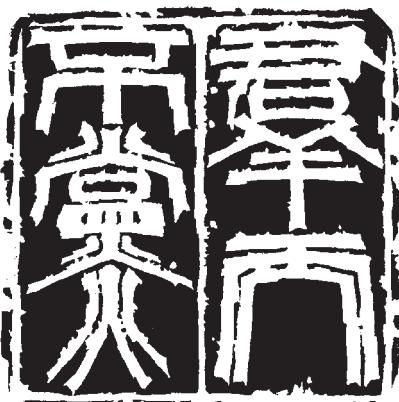
21世紀の書



既之勢可見

南川詩也

創作作品と併行して。
—大峰—
—高知県展出品作(30代)
—この形式は10数年勉強した、



「羣而不黨」

後藤大峰刻

週間後その大きさの作品を創り師匠に持つて行くと師匠曰く「作品小さいよ」の一言! 嘘然としておりますと「これが私の作品」と、お持ちになつたのが半切大で石の大きさが12センチと私は想像も出来ないものでした。そこで改めて創つたのが、この作品です。いわゆる「成語印」です。一般的な篆刻品のサイズを大きくしただけの今、思うと雰囲気の無いものとなりました。自身の中で「これでいいのかなあー!」と自問自答しつつの出品、その年の秋季展の作品でした。

第50回 書道芸術院単位認定講習会（高野山）

会場＝和歌山県高野山 高野山大学

会期＝平成26年8月23日（土）24日（日）

主管 関西総局長 小林 琴水

東京の次は関西と発表され、東京総局の滝 春芳先生に準備の手順をお聞きし、会場を決めるところから始まりました。運営委員を決め、1回目の下見を実施。会場は高野山大学の体育館、宿泊は西南院で引き受けたいただきました。最大宿泊人数を130名と聞き募集要項を作成。130名を目標に…。でもそんなに参加してくださるだろうかと心配でした。ところが第一次締め切りまでに150名を越え、その後も毎日のように希望者が増え、238名までになりました。次は宿泊がどうなるか、西南院に相談、最悪申込者にお断りしなければならないと考えました。西南院のご住職和田友伸氏のお計らいで、宿坊を4ヶ寺（西南院・常喜院・釈迦院・増福院）用意できましたとご連絡をいたしました。これも一難突破。次は懇親会場。西南院で200名を越える会場設営は初めてで、部屋をどのように使う

か検討するので時間をくださいとのことでしたが230名まで何とかできますとご連絡をいただき、これもまた一難突破。事務局・宿泊係・昼食係・会場設営係の運営委員で2度3度と下見をするために高野山まで足を運びました。

緻密な準備が進められ、7月29日最終の下見ですべて決定をして下山しました。そして関西総局運営委員全員の会議をこれも3回。50名の委員が集まり、受付から始まつての流れを説明。それぞれ自身が何をするのか認識してもらうよう徹底し、質問を受け、最後は全員心を込めて笑顔を絶やさず、講師の先生方・受講生の皆さんをお迎え、そしてお見送りまで懇切丁寧にさせていただいことを誓って最終打ち合わせ会議を終了しました。参加人数は前日まで増えたり減ったりましたが、最終は220名を越える大所帯になりました。

（小林琴水記）

日程
○8月22日（金）
○13時～運営委員など集合
会場準備・受付準備

小林琴水（運営委員長）
4、講師紹介
（公財）書道芸術院常務理事
松浦錦扇（運営委員）

5、激励のことば
小竹石雲先生
飯田春香 水田春峰
（運営委員）

6、日程・諸連絡
7、役員紹介
8、閉会のことば
小伏小扇（運営委員）



広い講習会場



開講式

●8月23日（土）
○9時～9時30分
受付
開講式

司会 中尾琴麗

1、開会のことば

砂本杏花（運営委員）

2、主催者あいさつ

辻元大雲先生

3、主催・実行委員長挨拶
（公財）書道芸術院理事長

○10時10分～11時30分
篆刻「2字（長久）を刻す」
講師 後藤大峰先生
助講師 佐藤香山先生
大沼樵峰先生

印刀の持ち方、使い方の指導

「長久」を白文で刻する
作品制作・提出



篆刻に挑む受講生



かな作品制作をする受講生



漢字の講義（揮毫）

○14時10分～15時30分
かな 「美しい連綿をつくるう」
講師 下谷洋子先生
助講師 勝山初美先生
かなの構造・性格について講義
作品制作・提出



講師による熱心な指導

○15時40分～17時
現代詩文書の線と空間の研究

講師 坂本素雪先生
助講師 熊谷宗苑先生
プロジェクトを使って解説
揮毫 辻元大雲先生
坂本素雪先生
小竹石雲先生
作品制作・提出



作品例を挙げての解説

○17時10分～18時30分
前衛書 「前衛書を楽しもう」
講師 金井如水先生
助講師 塚越紅苑先生
「前衛書とはどういうものか」
などについて講義
揮毫 金井如水先生
作品制作・提出

○19時～21時
懇親会（西南院2階大広間）
司会 中尾琴麗・北嶋青湖
1、開式のことば
2、主催者あいさつ
辻元大雲先生
（公財）書道芸術院理事長
3、主管・実行委員長挨拶
小林琴水（運営委員長）
4、乾杯
小伏竹村（運営相談役）
5、次回開催地担当のごあいさつ
後藤大峰先生
6、業者紹介
（公財）書道芸術院理事
7、運営委員紹介
8、閉会のことば
稻垣小燕（運営委員）

○12時40分～14時
漢字 「大字系作品の創作（行草体）
1行書）強い線で書こう」
講師 最首翠風先生
助講師 麻生峰扇先生
作品創作についての講義
揮毫（争坐位稿臨書）
大野祥雲先生
小林琴水先生
名越蒼竹先生

作品制作・提出

○ 9時～10時20分

原拓書道史

講師 種谷萬城先生
助講師 大内熾軒先生
山東省の書道遺跡
プロジェクトで解説
種谷萬城先生持参の原拓多数
を鑑賞

○ 8時20分～50分

● 8月24日（日）

講話
(添田隆昭高野山金剛峯寺宗務総長)

○ 10時30分～11時50分

書写
「学校教育における書写の動向」

講師 広瀬舟雲先生
助講師 三浦鄭街先生
正しいえんぴつの持ち方・姿勢
毛筆を使用して正しい筆順や
字形を指導

○ 14時～14時10分

閉講式

司会 中尾琴麗
1、閉会のことば
石田春窓（運営委員）
2、単位認定証授与
辻元大雲先生
(公財)書道芸術院理事長
3、主催者あいさつ・講評

○ 12時50分～14時

書道芸術院史
「書道芸術院の歴史と最近の院の活動」

講師 辻元大雲先生
助講師 前田龍雲先生
プロジェクターを使って講義。
作品解説

○ 12時～12時40分

昼食
(公財)書道芸術院理事長
4、謝辞
高橋清琳さん（受講生代表）
5、主管・実行委員長挨拶
小林琴水（運営委員長）
6、講習会場引継
関西總局から東北總局へ
7、諸連絡
崎井恵風（運営委員）
8、閉会のことば
水田春峰（運営委員）
(記録・写真)
松浦錦扇、前田龍雲他

受講生代表謝辞
辻元大雲先生
((公財)書道芸術院理事長)








始平公造像記（北魏）①

漢字研究部臨書課題

II（半紙普通判・縦使用）左記の法帖より何文字臨書してもよい。

〈解説〉 正式には比丘慧成為亡父始平公造石像・記という。龍門は古陽洞の北壁、第3層の最も外側に位置し、比丘慧成が亡くなった父のためにつくったものである。高さ240cm、幅185cm、

奥行き46cm。碑文は龕（断崖を掘って、仏像などを安置する場所）の東側にあり、高さ130cm、幅40cmである。制作年は諸説あるが太和22年（498年）9月14日の説が有力である。（編集部）

※落款を必ず入れる
署名、もしくは〇〇臨
(押印のみ也可)



(95%縮小)

右衛門切
(伝 寂蓮)

①

127

特別研究部臨書課題

(半紙普通判 (料紙可)・縦長に使用)
|| 別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

|| (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可。

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
○○臨

(押印のみも可)

(90%縮小)

<解説>

古今和歌集20巻の断簡で、もとは冊子本。

筆者は、後鳥羽上皇の和歌所わかごとこひやう寄人きじん
(宮中で和歌の講義、勅撰和歌集の編纂をつかさどった役所に出仕して、御歌会のことなどを担当した人)の一人である寂蓮と伝わるが、寂蓮の真筆の「一品経和歌懐紙」や「熊野懐紙」とは別筆である。ただ、書写年代は、これらとそう遠くない鎌倉時代初期と推察されている。右衛門切という名称は、「古筆名葉集」(文化5年 1808年刊)によると、3万石を支配した豊後国日出城主、木下右衛門大夫延俊の所蔵に因んだものと言われている。(編集部)

<よみ>

やまがきのき

よみひとしらす

あきたちていまやまがきのきりぐす
よな／＼なかむ風のさむさに

かつら あふひ

かくばかりあふひのまれになる人を
いかづらしどうらみざるべき

習い方解説 (一)

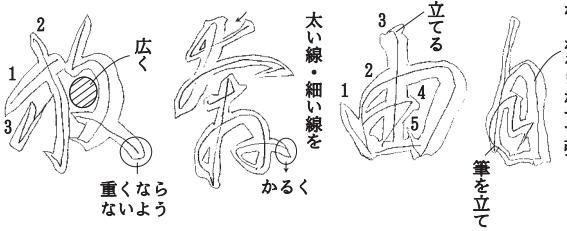
小林琴水

自由奔放 (四字熟語新辞典)
(自由奔放)

自分の思うがままにふるまうこと。
羊毛を使用、行書・草書を混せて表現してみました。

カゴ字を参考にごらん下さい。
4字の大小、線の太い細いを考えて書きましょう。

ねじれをきかせて強く



習い方解説（一）

種谷萬城

來事可追
(來事は追う可し)
(説苑)



「來事可追 往事不可及」(來事
は追うべし。往事は及ぶべからず)
過去の事はどうにもしようがない
が、将来の事はどうにでもやりよ
うがある。学書も同様、何時まで
経っても、今後の努力次第です。

今日は、北魏の鄭道昭の摩崖碑
の書風で倣書しました。ゆったり
として、伸びやかで、温かみがあ
る線が魅力的な古典です。書道の
学習は、古典の臨書が基本です。
臨書は、名筆を手本にして書くこ
とで、名筆からその良さを吸収し、
鑑賞力と表現力を磨きます。古典
の書風に基づいて書く倣書は、創
作の第一歩です。幾多ある魅力溢
れる古典の臨書と倣書で、地道に
書道の学習をして下さい。

かな規定 初段以上【十一月十五日締めきり】用紙 半紙普通判（料紙可）

石井明子選書

習い方解説（一）

石井明子

まづかく

吉備の中山帶にせ
る細

谷川の音のさやけさ

（古今和歌集よみ人しらす）
まづかく
吉備の中山帶にせ
る細
谷川の音のさやけさ

この春、この歌の地を訪ねまし

た。岡山市の吉備津神社です。

高野切第一種には、31文字の優

しいかな表現のこの歌が見られます。その雰囲気を一部とり入れな

がら、漢字を交え、『今を生きて

いる私』という意識で制作に臨み

ました。

かな作品の制作は欲張りに、古

典美と現代性の共存を求めます。

その自然な調和こそが、かなを志

す。私は遙かな目標であります。

帯を漢字で書きながら、過日、

成田山書道美術館で拝見した「生

誕百年 種谷扇舟展」の左の作品

をご紹介いたなりました。未だ

の方は必ず实物に接して下さい。

△生誕百年 種谷扇舟展

199

細谷川乃
まづかく
吉備の中山帶にせ
る細

よみ方 まが(可)ねふ(不)く(久)吉備の中山帶に(レ)せ(世)る

細谷川の(乃)お(於)との(農)さやけ(介)さ(佐)

創作



佐藤厚吉・西田ふみ

かな規定 秀級以下【十一月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ （料紙可）（たて32センチ・よこ12センチ）

掲載写真のうたを全體、または部分（二字以上の連綿）を臨書する。

高野切第三種
(掲載写真縮小93%)

よみ方 か(可)みな(那)つきしぐ(久)れふりお(於)け(介)るならのは
の(能)なに(尔)お(於)ふみやのふるいとぞ(所)これ

かな条幅規定【十一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切（料紙可）

木村東舟選書

習い方解説 (一)

木 村 東 舟

秋は早や小竹の根かたに水引の
つぶさに紅し咲きにけるかも

(北原白秋)

2行書きにし、最後に2字添え
る形です。漢字の書き出しは、大
きくなり過ぎぬよう注意し、次第
にリズミカルに書き進めます。2
行目を書く時に、書いた1行目を
見ながら、文字の大小、墨量の変
化等考慮して下さい。独自に研究
し、新鮮な作品を作りましょう。

*たて形式に限る

創作

よみ方
秋は(者)ゝや小竹のね(年)か(可)た(多)に(耳)水引(あひだ)の
つ(徒)ぶさに(尔)紅し咲きにけ(希)るか(可)も

漢字条幅規定 初段以上 [十一月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

半田 藤 扇選書

習い方解説 (一)

半田 藤 扇



(張陣)

書体=自由

今月から担当いたします。顔真卿の争坐位稿の書風を取り入れてみました。行書を用いた作風は流れが大切です。文字の造形、筆の開閉がいかに作品を造りあげる土台となることに着視してみて下さい。14文字の中に、大きく書く花(花・聲・夜)ところにも工夫して潤滑のある作品に挑戦してみて下さい。

筆は羊毛を使用。

習い方解説 (一)

大野 祥雲

漢字条幅規定 秀級以下 [十一月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

大野 祥雲 選書



(説苑)

書体=自由

草の上を風が吹けば草は風にしがつて伏す。上有る天子に徳があれば大衆は自然に感化され、善へむかうようになる。

温か味のある線で伸びやかにをモットーに筆を持ちました。まず始筆や転折が固くならないこと。また、線がヨリヨリになつては元も子もありません。軟らかさの中の筆力を心がけました。

君子之徳風
(君子の徳は風なり)

習い方解説 (一)

唐 岩 碧 水

江 南 春

千 里 艷 鳥 啼 緑 映 紅
水 村 山 郭 酒 旗 風
南 朝 四 百 八 十 寺
多 少 樓 臺 煙 雨 中

碧 水 書

表意文字である漢字は、読者にとつてその持つ意味が納得のいくまで構成されます。とくに漢詩は詩意にのせ詠者に無限の詩情をもたらすもので、書でも多く扱われたのはごく当然のことです。私も四季にわたり好きな詩を最初にとりあげます。

江南の広々とした明るい農村の情景。水辺の村にも山ぞいの町にも酒屋の旗がゆらめき、雨にけぶるたくさんの中塔がかすんでいます。

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

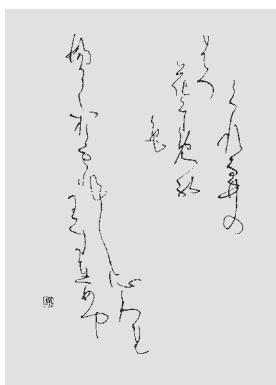
ホープ作品
各部総評 No.640

かな部 師範 小林 嘉江
紅の料紙にすつきりとしたりズムが美しく映える。右下の空間に向かっての弾力ある筆勢が持よい。

◎かな部総評 難しいバランスの構成かと思いましたが、結じてよく出来ていました。変体がな避を遍と誤解された方散見。(洋子評)

漢字条幅部 師範 川上 謙峰
気迫こもる木簡風表現。やや粗さも眼につくが強いリズム感を醸し出して爽快な作。

◎漢字条幅部総評 上級行草表現良作が少なかった。隸書木簡風に得るものあり。下級も含め多彩な表現を望む。(大雪評)



かな部 師範 小林 嘉江
向かっての弾力ある筆勢が持よい。

◎かな部総評 難しいバランスの構成かと思いましたが、結じてよく出来っていました。変体がな避を遍と誤解された方散見。(洋子評)

生氣湖年和通安遠廟羣
夙遂靈貺卑臻等峰書

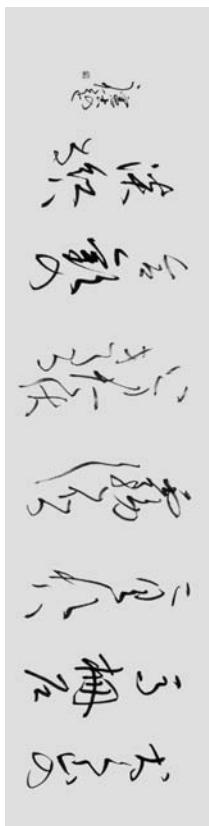
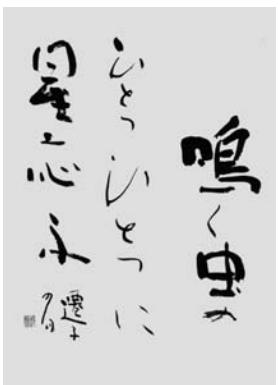
現代詩文書部 特選 松本 松樹

前衛書部 特選 相澤 柴扇

ペン字部 師範 石橋 嘉子

氣持ち抑えた動きが明るさをうみ格調高い作品になっている。一字一字を大切にした運筆がよい。

◎現代詩文書部総評 取つ付きやすいだけ、安易な作品も多い。しっかりした理念が必要。(石雲評)



かな条幅部 師範 京 紗子
描かれた線質の味わいはもとより、動きのある行間、字間から生まれる余白美は一切無理なく絶妙。

◎かな条幅部総評 墨量過多、字粒过大は散見するも、結じて無難な作であった。霧の誤字多く残念。

字典で再度確認のこと。(明子評)



氣字大きく、脈が落款まで持続し、連綿が美しい。かながうまく調和し格調高く、安定感あり。

◎ペン字部総評 全体的に連綿を頃の研鑽の賜物と思われ、良い傾向。今後益々楽しみ。(和楓評)

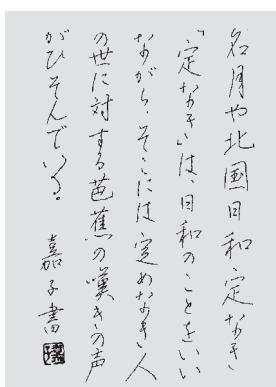
氣字大きく、脈が落款まで持続し、連綿が美しい。かながうまく調和し格調高く、安定感あり。

◎ペン字部総評 全体的に連綿を頃の研鑽の賜物と思われ、良い傾向。今後益々楽しみ。(和楓評)



漢字部 師範 遠藤 華香
超濃墨、羊毛筆を用い美しい渴線を重点に表現した隸書。ゆっくり運筆し、書作を楽しんでいる。

◎漢字部総評 相変わらず誤字が多い(上位作)「斜」「徑」「風」など確認を。秀級以下法帖を一冊持とう。(翠風評)



今月の

特別研究部優秀作品(特選)



田村紅沙書

178×61cm

◆一本の線、次の線と呼吸が伝
わってくる表現。作品が躍動し、
大きな世界を見させてくれる
事です。

(明子評)

◆作者の心にズーンと響いてい
る音色を想像した。奥深さ、重
厚さを伝える動きの大きさは見
事です。

◆エネルギーッシュな運筆で圧倒
される作。大胆な渴筆の変化が
躍动感を生み出している。

(大雲評)

◆大胆で勢いのある筆法で、氣
迫ある線が躍動している。紙面
狭しと渴筆が充満し、圧倒され
る。

(倫子評)

◆直線を多用し、切れ味の鋭い
波磔をアクセントにし、礼器碑
を爽やかに臨書している。章法
も明るい。

大内熒軒臨

173×53cm

前衛書
(蓮紅社) 田村紅沙
「音色(ねいろ)」



臨書 (千葉) 大内熒軒 「礼器碑」

◆字形よく、流れの美しさが自
然に見える技には頭が下がります。
それに勝る内面の魅力が伝
わり秀逸。

(明子評)

◆澄み切った線が美しい。2行
目末の渴筆が効果的。余白が美
しく、淑やかな空間を作り上げ
ている。

(萬城評)

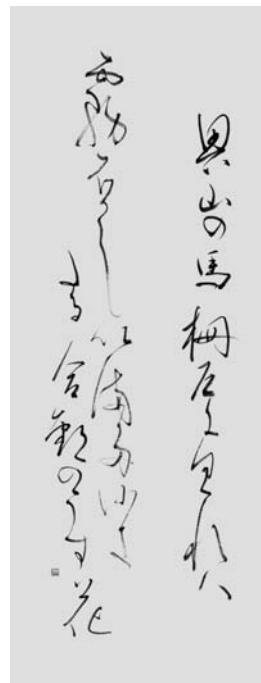
◆字形よく、やや懷抱広い字形
で大らかに表現した作。広がり
を感じる反面散漫もあり、更
に工夫を。

(大雲評)

新谷嵐泉書

140×53cm

かな (卯月) 新谷嵐泉 「おく山の…」



◆礼器碑の特長をよくとらえ、
明快かつ爽やかな作。落款のバ
ランスもよくまとまりある作。
(大雲評)

◆直線を多用し、切れ味の鋭い
波磔をアクセントにし、礼器碑
を爽やかに臨書している。章法
も明るい。

◆線の先まで心の行き届いた丁
寧な仕事は易しく美を伝えてく
れる。爽やかな風が吹き抜けて
いくよう。

(萬城評)

(明子評)

(倫子評)

◆流れよく、やや懷抱広い字形
で大らかに表現した作。広がり
を感じる反面散漫もあり、更
に工夫を。

(大雲評)

漢字研究部
(礼器碑)

選評 大野祥雲

今月のホープ作品



奥村美楓



竹杏和 溪蒼香
雪奈幸月信蘭
悦順万惠霞光
子一琇風花燐
阜陽ま由秀颯
紀月子き子圃雪
藤啓霜和律直
谷子風加江子子

漢字研究部 特選 奥村 美楓
この碑の特徴がご自分のものになっている。始筆、波磔、転折などの用筆をはじめ、方形でやや扁平な造形も自然に生まれ練度も高い。余白を生かし、ゆとりのあるまとめも素晴らしい。ただ落款は少し窮屈、一考を。

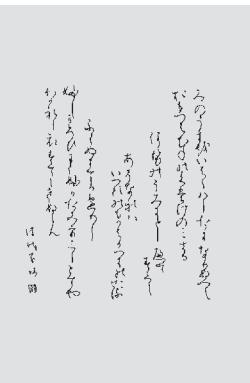
◎漢字研究部総評
礼器碑の線は細目で強い。それに一字一波と言われるよう波磔がある。この特徴は始

筆を藏法とし、逆方向に打ち込み、筆峰をまるめこむようにし、間をおかず進行方向へ進む。筆圧が加わり、終筆で強くはじき出す。また横画から縦画に移る転折。一度筆を抜き、突上げてから突き返す。まずこうした基本的な用筆を学ぶことが大切。普通の楷書で書いた方。井の一、二画目を忘れた方。居を局に書いた方もいました。

かな研究部
(石山切)

選評 勝山初美

今月のホープ作品



梅津佳代子

墨量の多少、筆圧の変化が美しく、ゆったりと書かれた作品は心がやすらぎます。伊勢集の特徴をよく捉えた優れた逸品となりました。
◎かな研究部総評
臨書しやすい書風のせいか、全体に良く書かれていました。遍(へ)邊(へ)の誤字が初心の方に見られました。字母を調べてから臨書しましょう。



温星寿

彩春洋

みどり香

優美龍

子扇子

峰華子

どり子舟

加子博

澄高 A 澄岩誠玉
春井 I 春沼和松秀

奥た A 生玉研や上石如う大 N 竹 A 遊瀬水書有紅蘭高田か
田か I 大松翠ま泉習月る雲 H 属 I 雲春海泉秋瑠鼎高泉か

特選

小梗生植石青川田方田崎木由富輝和美正甘美子枝子雨鄉

小猿藤豊橋浅伊山松綿飯黒川河伊西字飯都石須川小森田崎峰佳
林渡村田本川東丸貫高柳田岡藤澤田川み美佳代子

もく佳

白東書蓮竹華松硯千澄玉は高澄上秀幕 竜若澄書千 高竜清 広大玉
露実游紅扇桜村水葉春か松せ崎春泉水張 泉松春游葉 島阪藻松

青木作

渡吉遊遊山山茂宮松深浜長根浪中富高高音菅新庄波塩酒後小熊川小荻原川

藤達

辺田佐佐村崎木澤重堀野谷川尾澤橋水沢行司谷崎井藤谷本野原川

千童高陵入

東高調高蓮大木千秀詢玉白春秀春玉や上竜高誠松た蕙澄竜大大英高幕彩鬼福大竜こ高澄陽竜う玉澄

足浅會立木み勇萬な江介

山矢武松本堀坪平花野西渡筑田田田高鈴神新鹿猿坂齋後後高吉北岸神川河加大梅宇岩今今井犬伊磯天熱

遷本口藤浦田切江山里村中山子井原中玉草木宮谷田渡本藤藤武瀬村田田崎合藤石山井崎村開井野元

美千世美

真登蕙玉美幸幸彩智喜裕紀宏憲耶哲代利玉翠題莧里翠喜玄彩欣惠東典綾和龍星久楠陽貴心花玉道敏清蕙桃

紀江睦江雪雲華子詢子人子子衣子枝光江右美香子萩城雨子舟子美敬恵祥子麗光泉華枝香石子耀

A 明硯八八千四正硯春竜高や樹蒼愈椿大筑た千蘭 N 附詢千生梓伸艸大こ樹安秀筑彩こ大秀旭千 N 筑八八書大遊大こ

I 漢水生雲葉谷華水汀泉崎ま原陽書翠阪桜か葉鼎 H 中扇正華大葉大江大玄阪こ原波明桜 だ阪明老葉 H 桜戸街游阪雲阪だく

清嶋柴篠七紫佐佐佐櫻酒齋紺込小小小河河小小國工木北菊菊川川龜金加葛小大大梅岩岩猪伊伊市石石生池池五新

水田條雲藤タタ木井藤野山林林口野野板泉峰藤原又地池元上井岡藤 野森西鷗原根崎井又藤藤川渡川駒田牛井

由与惠木木か

江理香輝春泰善茱譽紫萩翠惠久喜一信虹惠洋よ理良悦紫翠桂萩尚萩佳藤

紀称翠美裕煌詠麻雅和龍知つ遊美雅晃萩智白惠くら子佳蘭子峯峰高仙峰風美陽美美代美子祥峯子扇佑子泉徑華花古漢米雪

正大 I 京昌北竹幸や玉椿玉もあ春玉 幕大澄長生華 大澄大や正幕樹東遊大雲青玉石千も大た一立翠 大明澄大竹高華正

遷華阪 S 橋苑陸美屬川翠川くか汀川 張阪春月大仙 "阪春阪ま華原向雲阪溪峰川舟葉く阪か宮精柳" 阪漢春阪扇陵仙華

137 驚脇六吉吉吉横山山谷安森森本富湊三松増増牧前細藤深廣平東林早島長中仲中内戸戸德樋鶴千近玉田高高高住鈴實

名沼木木本田田山本口知鳴本田吉野 嶋島佐田田野川井澤地田田 坂山井村西西澤藤村部田泉田池岡中中橋司井吉木川

氏名略

将華弘佑翠四蘭梅律美沙悦藤明達美敏翠白華佳清榮靜智佳美美敏玉梅芝久由游玉 古博藤萩雪雅白柳萩良文幸 小和智仁

太秋江子綾子舟香子子子子谷香枝子子舟鈴秀子次子子子月幸和子華艸香仙美溪泉綾塘舟風峯香芳翠子江苑秋子惠美

かな研究部 特選 梅津佳代子

書

大阪

石彩

天熱

多

桃

雪

鳳

美

かな研究部成績表